

# イワシ類成魚の分布生態の研究

## (我が国周辺漁業資源調査)

(予算区分 受託 研究期間 平成7年度～)

担当：水産技術研究所資源海洋科 永倉靖大

### 【研究の背景とねらい】

国連海洋法条約批准に伴い、我が国周辺における漁業資源の漁獲可能量(TAC)を決定し、資源の保存及び管理に関する措置が義務付けられています。それを受け、重要魚種については資源評価が行われ、漁獲統計や生物情報等の収集が行われています。

イワシ類についても、沿岸に出現するイワシ類成魚の漁獲統計や魚体組成を調査し、その成熟実態と併せて回遊との関連を検討します。

### 【これまで得られた成果】

- 県内におけるマイワシの主要22港水揚量は、昭和62年をピークに減少し、平成17～20年は極めて低水準で推移していました。平成21～23年は増加傾向にありましたが、平成24年に減少、平成25年にわずかに増加した後、横ばいで推移しています。一方、伊豆東岸定置網による平成27年の水揚量は、平成17年以降の直近10年間では平成26年に次いで多くなりました。
- 県内におけるカタクチイワシの主要22港水揚量は平成元年に急増して以来、平成7年が最高で、それ以降は増減を繰り返しています。なお、平成24年以降は1,000～1,800トンと低水準で横ばい傾向にあります。



写真 上：マイワシ、下：カタクチイワシ

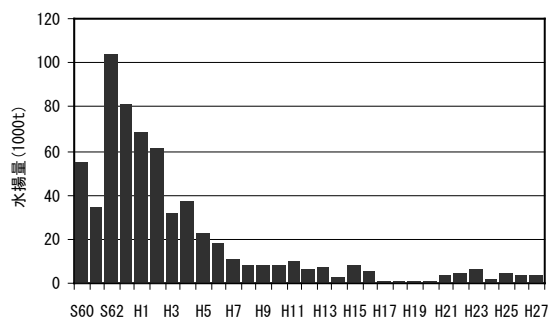


図1 県内マイワシ水揚量の推移

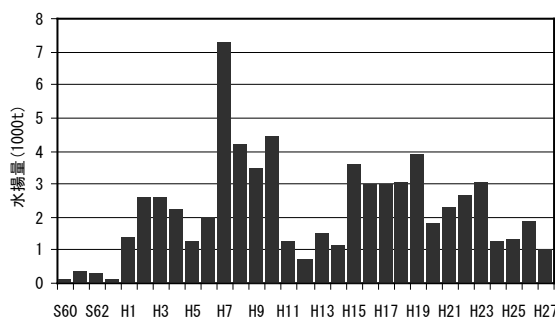


図2 県内カタクチイワシ水揚量の推移

### 【期待される成果】

- 水揚量等、体長組成、成熟状況等の生物情報を基に静岡県周辺海域における来遊機構や資源状態を把握することで、より精度の高い資源評価や資源管理目標について検討を行うことが可能となります。

### 【今後の計画】

- 成熟実態と漁況の関係、県内と全国の漁況の関係について検討し、静岡県周辺海域におけるイワシ類来遊機構について把握します。

(作成 平成28年4月)